

この取扱説明書は作者が個人的に使用する目的で翻訳作成しています。他者が記載されている内容を参考として個人的に利用することは拒みません。但し、営利目的での利用はご遠慮ください。尚、記載されている内容に関しての間違い等が起因した不具合について一切の責任は負いません。

間違い、ニュアンスの違い等があればメールでお知らせください。修正改定いたします。

メールアドレス [info@digiitizizi.com](mailto:info@digiitizizi.com)

2018年3月17日 初版作成 デジイチ爺

印刷に誤りがある、または翻訳に間違いがある場合は、大多数のユーザーに理解していただきたいと思います。  
仕様およびデザインは予告なしに変更されることがあります。

# KF-590EX-N

For Nikon DSLR



取扱説明書

K & F Concept

English | 中文

スピードライトを購入していただきありがとうございます。

お使いになる前に本書をよくお読みになり、理解していただき、このスピードライトを正しくお使いください。

## 安全についての説明

1.近くに可燃性ガスや液体ガス（ガソリンや溶剤など）がある場合はスピードライトを使用しないでください。！  
爆発の危険があります！

2.車、バス、電車を運転している運転手やオートバイと自転車の運転手にはスピードライトを照射してはいけません。一時的に眩惑見えなくて交通事故の原因になることがあります。

3.目の近くでスピードライトを照射しないでください！人や動物の目に直接スピードライトを使用すると、網膜を損傷し、重度の視覚障害、失明さえも引き起こします。

4.本書に記載されている電池のみを使用してください！  
5.太陽の下や火の近くなど、高温の環境に置かないでください。

6.濡れた電池はスピードライトから取り除かなければなりません。  
アルカリ性の液体が電池から出てくるとスピードライトが破損する恐れがあります。

7.充電不可の乾電池を充電しないでください。  
8.極端に暑い場所や湿気の多い場所ではスピードライトを保護する注意をしてください！

9.車のダッシュボードのグローブボックスにスピードライトを置かないでください。  
スピードライトをトリガーするときは、反射シールドの前または上に、防眩物を置かないでください。反射面に汚れがないか確認してください。  
スピードライトが放射する高エネルギーによってアイテムが燃焼したり、反射シールドが損傷したりすることはありません。

10.連続発光の後にスピードライトに決して触れないでください。  
火傷する危険があります！

11.自分でスピードライトを分解しないでください！電気ショックの危険があります！  
プロではない人ではスピードライトを修理できません。

12.高速連続撮影を行う場合は、10回の連続発光毎に15分間停止する必要があります。

13.高速リサイクルでスピードライトを連続して使用し、ズーム位置が36mm未満の場合、  
ディフューザーは高エネルギーとなるため熱を放出します。

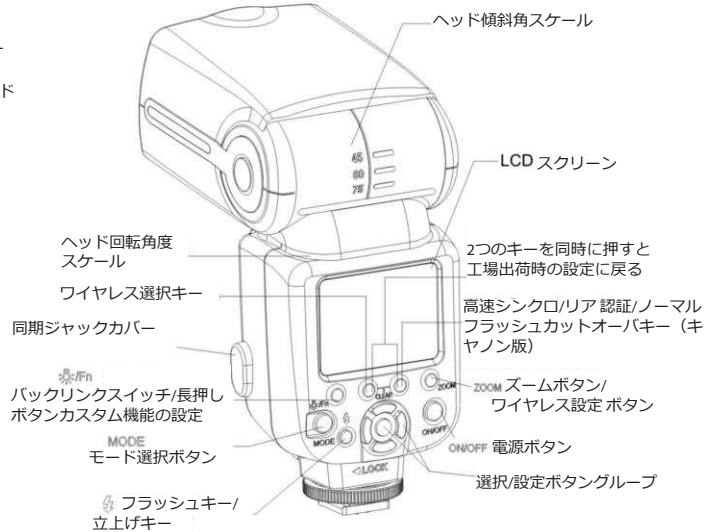
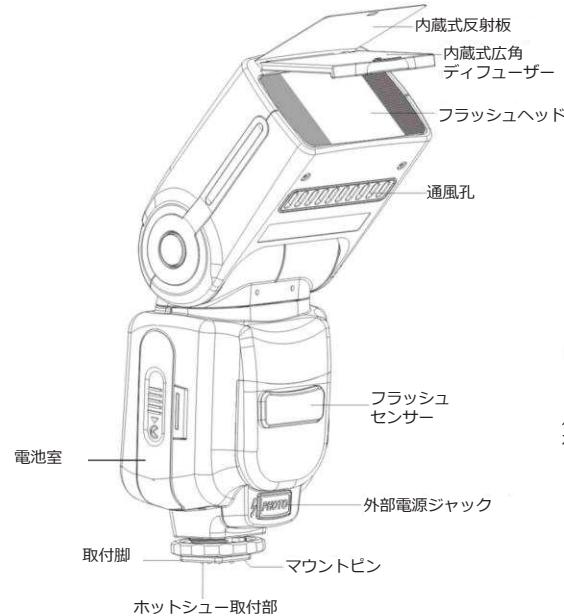
14.温度の急激な変化は蒸気凝縮（結露）を引き起します。

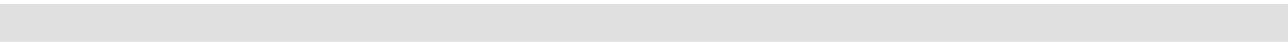
15.このスピードライトに欠陥が発見されたら絶対に使用しないでください。

## スピードライトの機能

- 1.TTLフラッシュ
- 2.マニュアルフラッシュ
- 3.Multi（マルチ）フラッシュ
- 4.ワイヤレススレーブユニット機能：キャノンとニコンのワイヤレスフラッシュシステムとの互換性、マニュアル、周波数フラッシュからTTLを実現。
- 5.S1,S2光点滅モード
- 6.カメラによるフラッシュ制御（最新のキャノン版のみ）
- 7.後幕シンクロ
- 8.音声プロンプト
- 9.カスタム機能
- 10.省電力モード
- 11.過熱保護
- 12.自動保存機能
- 13.大型LCDディスプレイ
- 14.マニュアル、オートズーム機能
- 15.クリックレスポンス：フル出力サイクル時間はわずか2.9秒です。
- 16.高速連続撮影をサポート：1/16の明るさ、12EPSの高速連写をサポートします。

## 名 称

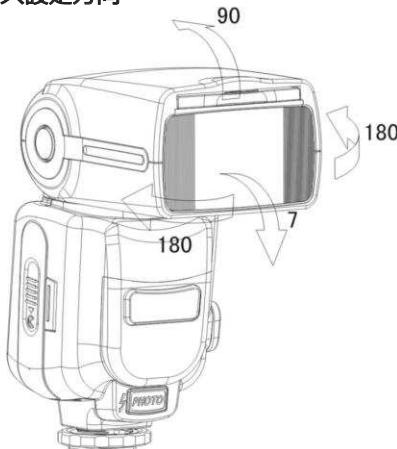




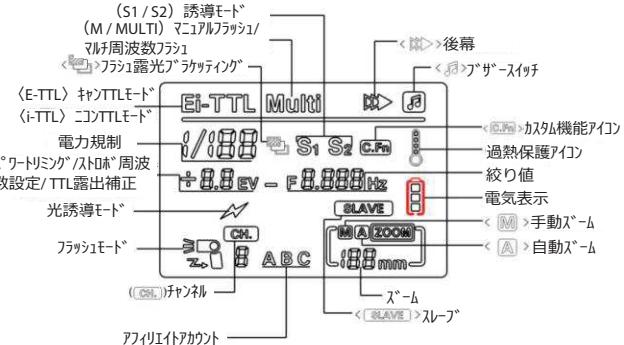
## AF補助照明

暗闇の下で作業しているときには、フラッシュライトの直前にある自動AFが一時的に赤い光を照射して焦点を合わせることがあります。  
被写体が邪魔になることがありますので、手動でピントを合わせることができます。

## パワースetting方向



このスピードライトは画像をより自然にするために天井や壁へ向けて上向き90°、下向き7°まで回転できます。水平方向回転は“左から右へ”または“右から左へ”180度回転させることができます。



## 基本操作

### 乾電池を取り付ける



- 1.電池室のカバーを開く  
矢印の方向に合わせて電池室カバーをスライドさせて開きます。



- 2.電池を取り付けます  
壁に表示された乾電池アイコン[+]と[−]に合わせて乾電池の正負の接点が正しく向きが合っていることを確認します。



- 3.電池室のカバーを閉じます  
電池室カバーを矢印の方向へスライドさせて閉じてください。

### 適用電池または充電式電池

下記の各バッテリーはこのスピードライトに適しています。

A.単3形アルカリマンガン電池（1.5V）。中程度の電力需要に対応でき、メンテナンスは必要ありませんが、再充電することはできません。

B.単3形ニッケルカドミウム電池（1.2V）。この電池は迅速にリサイクルされ、再充電可能で経済的です。

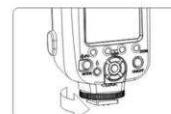
C.単3形ニッケル水素電池（1.2V）。この電池の電力は明らかにニッケル-カドミウム電池のそれを上回り、環境には害がない（カドミウムを含まない）。

D.単3形リチウム電池（1.5V）。この電池は大容量です。自己放電率が低く保守の必要がない。

E.単3形水素酸素セル（1.5V）。この電池は(OXYRIDE)とも呼ばれ、その容量はより大きく、その寿命はアルカリ電池の約1.5倍である。高電力消費の電子製品には非常に適用性があります。

外部加速用パワー・ボックス、バッテリーボックス、パワーパックを使用する場合は、スピードライトに単3形のバッテリーを入れてCPUに供給してください。スピードライトを長時間使用しない場合は、バッテリーを取り外す必要があります。

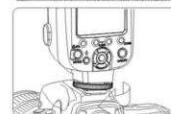
### カメラに取り付ける



- 1.スピードライトを取り付ける準備をする  
ロッキングプレートをマークされた矢印の最高点まで回転させる。



- 2.スピードライトを取り付ける  
カメラのホットシューにスピードライト取り付け用脚を取り付ける。



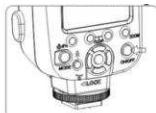
- 3.スピードライトを固定する  
矢印のようにロッキングプレートを締めます。

- 4.スピードライトを取り外します。  
ロッキングプレートを最高点まで回転させた後、ホットシューからスピードライトを取り外します。

●注：スピードライトとカメラがオフになっていることを確認してください。

●強制的に取付け、取り外しをしないでください。

## 電源を入れる



電源ボタン (ON / OFF) を2秒間押してスピードライトをオン/オフします。

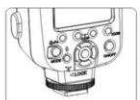
バッテリ電力を節約し、バッテリの放電を防ぐために、デフォルトの設定は次のとおりです。

自動的に電源を切った後、スピードライトが60秒以内に動作しないとき、CPUは自動的に待機状態になります。この場合スピードライトを起動させるためのキーを押してください。スピードライトが30分以上働かない場合、CPUは自動的にシャットダウンします。

スピードライトを長時間使用しない場合は、スピードライトの電源を切つて電源（バッテリー）を抜くことをお勧めします。バッテリーを取り外す前に、スピードライトの電源を切ってください。

スピードライトがフル充電された後、スピードライトPILOTボタンが点灯し、スピードライトがトリガー可能な状態になったことを示します。スピードライトを使用することができます。

## 充電状態表示



撮影前に、フラッシュ充電ランプとカメラファインダーのランプが点灯していることを確認してください。

## 拡張インターフェース

インターフェイスを拡張してPCの同期を完了することで外部電源を供給



1.外部電源コネクタがより適切な電力を供給します。



2.PCとの同期を確認する。カメラとスピードライトが同期していることを確認します。

## TTLフラッシュ

カメラの撮影モードを<P>（プログラム自動露出）または<CL>（自動）に設定します。自動フラッシュでは、通常の自動露出で<P>モードと<CL>モードと同じように簡単にになります。



フラッシュ露出補正值を設定する

- 1.フラッシュモードを選択します。
- 2.[MODE]モードボタンをLCDの表示まで押します



フラッシュ露出補正值を設定してください。

5つのボタンで選択し、[上][下]を押して補正值を設定します。



1.設定ボタングループ[右]キーを選択します。電力値は順次増加する。

設定ボタングループ[左]キーを選択します。電力値は順次減少する。

2.補正值は+3.0EV～-3.0EVの範囲にあります。

補正值アイコン：

0EV→+0.3EV→+0.7EV→+1.0EV→+1.3EV→+1.7EV→...→+3.0EV  
0EV→-0.3EV→-0.7EV→-1.0EV→-1.3EV→-1.7EV→...→-3.0EV

## 撮影モードでE-TTLとオートフラッシュを使用する

カメラの撮影モードを<AV / A>（絞り優先AE）、<TV / S>（シャッター優先AE）、<M>（マニュアル）に設定し、E-TTL/i-TTLオートフラッシュを使用することができます。

TV	シャッタースピードを手動で設定したいときにこのモードを選択します。 シャッタースピードに合わせて露出を自動的に設定します。絞りディスプレイが点滅すると、背景露出が露出不足または露出オーバーになります。絞り表示が点滅しなくなるまでシャッタースピードを調節します。
AV	絞りを手動で設定したいときにこのモードを選択します。 カメラは自動的に露出に合わせてシャッタースピードを設定します。背景が夜景のように暗い場合は、遅い同期スピードを使用して主要被写体とバックグラウンドの両方の標準露出。
M	主被写体の標準露出はフラッシュで取得され、低速シャッタースピードで背景の標準露出が得られます。低光度シーンでは遅いシャッタースピードが使用されるため、シャッタースピード表示が点滅すると、シャッタースピード表示が点滅しなくなるまでバックグラウンド露出が露出アンダーまたはオーバーになることを意味します。

<DPE>または<A-DPE>撮影モードを使用すると、<P>（プログラムAE）モードと同じ結果になります。

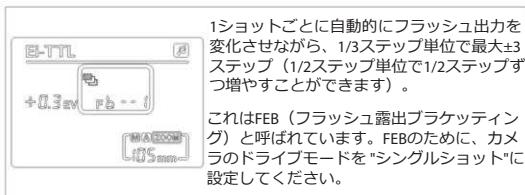
## フラッシュ同期速度および使用される絞り

	シャッタースピード設定	絞り設定
P	自動設定 (1/60 sec.~1/Xsec.)	自動
TV/S	手動設定 (30 sec.~1/Xsec.)	自動
AV/A	自動設定 (30 sec.~1/Xsec.)	手動
M	手動設定 (buLb,30 sec.~1/Xsec.)	手動

1/X秒。カメラの最大フラッシュ同期速度です。



### FEB：フラッシュ露出ブレケッティング値を設定する



1ショットごとに自動的にフラッシュ出力を変化させながら、1/3ステップ単位で最大±3ステップ（1/2ステップ単位で1/2ステップずつ増やすことができます）。

これはFEB（フラッシュ露出ブレケッティング）と呼ばれています。FEBのために、カメラのドライブモードを“シングルショット”に設定してください。

“5つの設定ボタングループ”[上][下]キーを押して、必要な露出ブレケッティング値を設定します。

1.プレス “5つの設定ボタングループ”[上]キー→「ブレケッティング」値が増加します。  
2.プレス “5つの設定ボタングループ”[下]キー→「ブレケッティング」値が減少します。

2.FEBは0～3.0の範囲です。

FEBアイコン

0	0.3	0.7	1.0	1.3	1.7	2.0	2.3	2.7	3.0
---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

### FEL：フラッシュ露出ロック

フラッシュ露出ロックは、シーンの任意の部分の正しいフラッシュ露出設定をロックします。LCDパネルに<TTL>が表示されます。カメラの<FEL>ボタンを押し、カメラに<FEL>ボタンがない場合は、""ボタンを押します。

ニコン製カメラの場合“FV”ボタンを押します。

カメラがフラッシュ露出ロックをサポートしている場合：TTLモードでフラッシュ画面を接続すると、カメラの露出をロックして設定できます。設定後、スピードライトはプリフラッシュと必要なフラッシュを発光させます被写体の出力はメモリに保持されます。

カメラは、フラッシュの互換性のある出力データを計算し、構成を完了した後、再び構図を決めることができます（この機能は、カメラのサポートを使用する必要があります、カメラのマニュアル設定を参照してください）。

### マニュアルフラッシュモード（M）

マニュアル露出が必要な場合は、フラッシュ出力の明るさを1/128から1/フルパワーの間に設定する必要があります。

フラッシュ出力を1/3の増分で調整します。  
ズームボタン[ZOOM]を押してマニュアルズームにします。



フラッシュモードを選択する[MODE]モードボタンを押して、LCDディスプレイを表示させます。 [■].  
電力設定

1.設定ボタングループ[右]キーを選択すると、電力値が順番に増加します。

アイコン : 1/128→1/64→1/32→...→1/1



2.設定ボタングループ[左]キーを選択すると、電力値が順番に減少します。

アイコン : 1/1→1/2→1/4→...→1/128



3.設定ボタングループ[上][下]キーを選択し、フラッシュのパワー値の微調整を行います。

アイコン : 0EV→+0.3EV→+0.7EV  
0EV→-0.3EV→-0.7EV

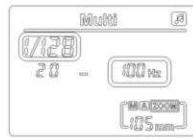
## ストロボフラッシュモード (Multi)

マルチモードを使用すると、一連のクリックフラッシュすることができます。それは、写真上で動く被写体の複数の画像を撮影することができます。フラッシュ周波数を設定することができます。反復マルチモードを使用すると、単一露光は多重露光のストロボ効果を作り出します。このモードは、移動する被写体を撮影するときによく使用されます。フラッシュヘッドの過熱や損傷を防ぐために、ストロボフラッシュバーストで10回以上実行しないでください。2回の繰り返し操作の間にコールバックのフラッシュに十分な時間を置いてください。10回のフラッシュ動作後、少なくとも15分間冷やしてください。ストロボフラッシュバーストで10回以上実行するとフラッシュが自動的に停止し、フラッシュヘッドの過熱を防ぐことができます。このような場合は、フラッシュを少なくとも15分間冷やしてください。このモードを開始するには、新しいバッテリまたは完全に充電されたバッテリを使用してください。

ストロボモード（マルチ）の下では、フラッシュパワー、フラッシュのトーン、周波数調整をサポートしています。



フラッシュモードを選択する。LCDが表示されるまで[MODE]モードボタンを押します。



### 周波数設定

設定ボタングループの中の[中]キーを選択します。  
ディスプレイの [FLASH] を点滅させ、  
設定ボタングループ[LEFT] [RIGHT]を押し  
て周波数を設定します。  
使用可能なフラッシュ周波数は1HZ～  
199HZです。値を設定した後、設定ボタン  
グループ[中]キーを押して確定します。

## 点滅回数の設定

設定ボタングループ[左] [中]キーを押して点滅を表示させます。  
設定ボタングループ[左] [右]キーを押して、1～40の点滅回数を設定します。  
設定ボタングループ[中]キーを押して確定します。

## 露光/パワー設定

設定値ボタングループの中央の[中]キーを押して、LCD  
の表示  が点滅するまで設定ボタングループ[左] [右]キーを  
押してフラッシュ出力を設定します。  
値が設定された後、[中]キーを押して確定します。

### フラッシュ・パワーおよびフラッシュ・リレーショナル表の数

フラッシュ出力	1-128	1-64	1-132	1-16	1-8	1-4
フラッシュ番号	1-40	1-20	1-12	1-8	1-4	1-2

## 【ZOOM】ズーム設定



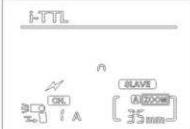
ズームボタン[ZOOM]キーを押してズーム  
データを点滅表示させ、設定ボタングルー  
プ[左] [右]キーを押して、適切な焦点距離値  
を設定し、焦点距離値が設定された後、  
[ZOOM]キーを押して確定します。

設定ボタングループ[右]キーを押すと、フォーカス値が順次  
増加します。  
設定ボタングループ[左]キーを押すと、フォーカス値が順次  
減少します。

A	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M
自動	18	24	28	35	50	70	85	105	135	180	

## ワイヤレスフラッシュモード

複数のワイヤレスフラッシュ機能を備えたスピードライトは、通常のTTLオートフラッシュと同じように、さまざまな照明効果を作成できます。



Cはキヤノンの無線フラッシュ信号を受信するだけで、N信号の干渉を避けることを意味します。Nはニコンのリモートフラッシュ信号を受信するだけで、C信号の干渉を回避することを意味します。

1.ワイヤレス選択キーを押すことで、スピードライトをワイヤレスフラッシュモードに設定します。LCD画面にSLAVE Cと表示されているときワイヤレス選択ボタンを押します。フラッシュはノーマルフラッシュと同様にSLAVE C / SLAVE N / S1 / S2 / Nに切り替わります。SLAVE C / SLAVE N / S1 / S2 / 4機種をスレーブ機として使用し、異なる照明効果を作り出します。

### 2.マスターユニット

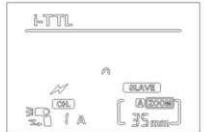
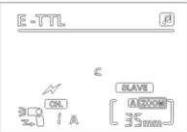
マスタースピードライトは、任意のフラッシュ露出補正設定、フラッシュ露出ブレケット、露出ロック、マニュアルフラッシュストロボスコープフラッシュを設定し、情報設定は自動的にスピードライトに転送されます。

3. [ZOOM]キーを押すと **CH1** が点滅。

[左] [右]キーを押して無線チャンネルを設定します。[中]キーを押して確定し、設定を終了します。

4. [ZOOM]キーを押してA / B / Cを点滅させ、[左] [右]キーを押してグループを設定します。

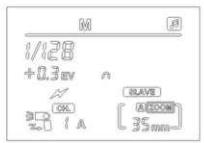
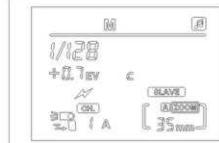
[中]キーを押して設定を終了します。



SLAVE Cは、Caon7D / 60D / 600Dカメラフラッシュおよび580EX II、600EX、ST-E2からのワイヤレスフラッシュ信号を受信することを示します。SLAVE Nは受信したC命令形式のNikonから、SB-900/800/700、SU-800のC命令信号を示します。SLAVE C / Nは、4つのチャンネル、3つの異なるグループ、TTL、マニュアルおよびトロボウのワイヤレスフラッシュを挙げています。

ワイヤレスフラッシュを回転させてこのモードを使用すると、ワイヤレスのトリガーセンサーがマスターTTLドライバを認識されます。撮影前に、このピートドライバとマスターTTLドライバ同じチャンネルに設定する必要があります。ループユニットの通信チャンネル(1,2,3,4)とループユニットグループ(A, B, C)をそれぞれ設定するチャンネルまたはがタグが点滅するまで[ZOOM]ボタンを押してください。

ループユニットでの作業時に、焦点距離がマスター/フラッシュによって制御されていないときは、手動でフラッシュの輝度モードを調整し、マスター制御ユニットによって完全に制御され、再現された情報を表示する必要があります。

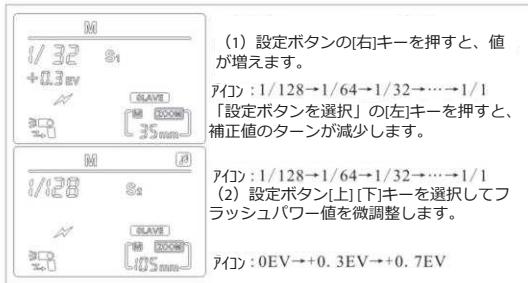


## ライトフラッシュモードS1 S2

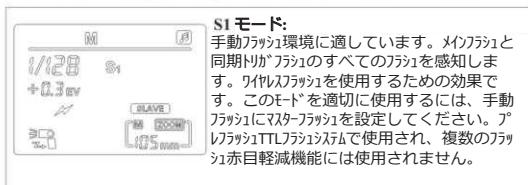
フラッシュがオフのときにフラッシュの必要があるとき。S1またはS2でスレーブモードを設定できます。S1、S2モードを使用する場合、フラッシュパッドを回転させることにより、マスターに対してセグが点灯します。

### 点滅モードを設定するS1 S2 :

1.ワイヤレス選択ボタンをタッチLCDディスプレイS1、S2を押します。



2.ワイヤレス選択ボタンを押して、S1、S2モードにフラッシュを設定することができます。これらの2つのモードは、マシンの補助ランプの役割から様々な照明効果を作成するのに適しています。手動フラッシュ環境とTTLフラッシュ環境に適しています。これらの2つのモードで出力輝度を調整するモードはMモードと同じですが、[左][右][上][下]と[中]ボタンで操作するだけです。



### S2モード:

「プリフラッシュキャンセルモード」とも呼ばれるTTLフラッシュモードに適しています。このモードでは、プリフラッシュTTLフラッシュとメインフラッシュとの同期を無視できるため、TTLモードでマスターフラッシュをサポートできます。

補助ランプ選択S1 / S2モードがマスターフラッシュと適切に同期できない場合は、マスターフラッシュのフラッシュモードが正しいことを確認してください。検出モードと出力は正しく設定する必要があります。

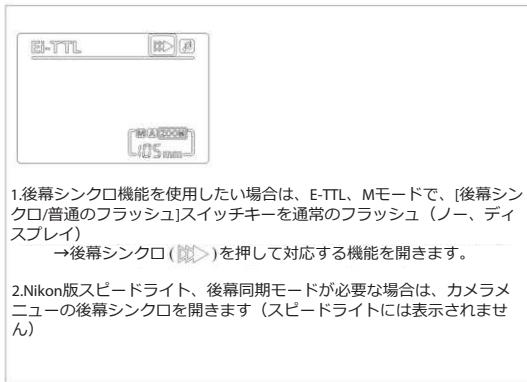
S1 S2モードを使用する場合、以下の状況に注意してください。

赤目緩和機能とモデリングで使用するマスタースピードライト。  
リモートフラッシュモード（Nikon）またはワイヤレスフラッシュモード（Canon）を使用するマスタースピードライト。  
フラッシュコントローラとしてST-E2を使用してください。

注：スレーブモードのフラッシュ、モードキーが無効な場合は、手動でモードを変更できるように、スレーブモードから復帰する必要があります。  
Nikon版スピードライトをスレーブモードに設定すると、カメラと接続できなくなりますので、スレーブモードを解除して接続する必要があります。  
Caon版がスレーブモードでスピードライト設定になっているときは、スレーブモードからE-TTLモードに移行します。

## “”後幕シンクロ設定

後幕シンクロ：遅いシャッタースピードでは、被写体に沿ってライトトレールを作り、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。



注：後幕シンクロを正しく使用するには、カメラのフラッシュモードとシャッター速度を正しく設定してください。

## マルチランプ照明アプリケーション

### 1. ワイヤレス照明灯の指示

マルチステージフラッシュ、ワイヤレスフラッシュ構成  
2つまたは3つのスレーブグループを作成して、複数方向性の要求を完了することができます。TTLオートフラッシュ撮影倍率、マニュアルフラッシュ出力、ストロボ撮影などのメイン制御フラッシュ。

(1) スピードライトを使用して2つのスレーブグループをワイヤレスフラッシュ。  
ワイヤレスオプションのセット：SLAVE c / SLAVE n個のオプションがあります。

通信チャネルが提供される：1,2,3,4

セットグループ：A、Bグループに設定された2スピードライト  
マスタユニットA : BまたはA : B : Cのファラッシュ比をフラッシュ撮影に設定します。

(2) スピードライトが3つのスレーブグループをワイヤレスフラッシュにする。  
ワイヤレスオプションのセット：SLAVE c / SLAVE nオプションがあります。

通信チャネルが提供される：1,2,3,4。

セットグループ：3スピードライトは、A、B、Cのグループに分かれています。  
主制御ユニットと撮影：通信チャネルが設けられている：フラッシュレシオに対する主制御ユニットは<A : B : C>である。

フラッシュをテストするためにマスタユニットを押す。

フラッシュのノーマルまたはノーオーをテストする。

スレーブユニットが点滅しない場合は、スピードライトをマスタユニットの角度およびマスタユニットまでの距離に向けてチェックしてください。

注：スレーブユニット<C>グループとして設定された<RATIO A : B>を設定すると、マスタユニットは点滅しません。3つのスピードライトのグループが<A>に設定されている場合、それらは照明用として使用されます。グループ制御ユニットによる受け入れスレーブ制御。

## 2.ワイヤレス誘導照明灯

内蔵スピードライトまたは外部スピードライトをマスタースピードライトとして使用します。別の角度で行うためにスピードライトを異なるタイプで使用してください。使用されるとき、無線信号はドアの壁によって反射することができます。したがって、スレーブスピードライトを設置するスペースが増えます。

改善された無線トリガセンサは、S1、S2モードが屋外環境で動作することができるより高いセンサ感度を有し、無線トリガ検知は15メートルの距離を有する。

スレーブスピードライトを使用して撮影する前に、S1またはS2モデルが同期しているかテストしてください。

マスターとスレーブスピードライトの間に障壁を置かないでワイヤレス光信号を送信の障害になります。

屋外で使用する場合は、光制センサーをマスタースピードライトに向けてください。

太陽光の下ではスピードライトの光と干渉しあって、スピードライトを使用することはできません。

撮影要求を満たすためにはスピードライトのヘッドを旋回させてください。

## パウンスフラッシュ

フラッシュヘッドを壁または天井に向けると、フラッシュは壁に反射されます。被写体に照らされると、被写体の影が減り、より自然な写真効果が得られます。

## 高速バーストモード

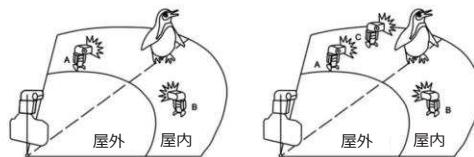
スピードライトは高速バースト機能を持っています。

カメラをバーストモードにして撮影してください。

注意してください：写真は明るさに応じて変化します。

そのため十分なバッテリー電力を確保してください。

## 位置と動作範囲を設定します。



## カメラのメニューアクセス（Canonの最新モデルのみ）

最新のカメラであるE-TTL（Canon）をサポートするカメラフラッシュメニューによって動作することができます。フラッシュ制御メニューで「外部フラッシュ機能設定」と「外部フラッシュカスタム設定」でフラッシュパラメータを設定できます。E-TTLモード/マニュアルフラッシュモードとマルチフラッシュモード（マルチ）、ワイヤレスフラッシュ設定、露出ブレケッティング、露出補正、焦点距離と高度なオプション機能への切り替えなど。

## 音声プロンプト：

異なる音を発することによってスピードライトの異なる作業条件を促し、撮影に集中できるようにします。

カスタム機能設定ボタンを長押しする

カスタム設定にするとブーストイッチがオンまたはオフになります。

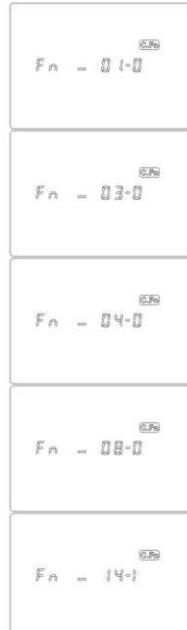


- 1.長く鳴る：完了するための復帰。
- 2.2回の短い音：通常のフラッシュを完了するために起動または復帰。
- 3.長いピーブ音が2回：フラッシュ復帰が未完。
- 4.3つの短時間の音：30分の操作なしで自動的に電源を切ったり、シャットダウンしたりする。
- 5.短いピーブ音が4回：電池切れ（復帰不可）。
- 6.ディスプレイには連続的な短時間のピーブ音が鳴ります：フラッシュオーバーヒート、過熱保護に入る。過熱保護を入力すると、ディスプレイに過熱保護アイコンが表示されます。

## バックライトのヒント

- 1.最初にLCDバックライトスイッチを押すと、LCDバックライトが点灯します。LCDバックライトを押すとLCDが閉じた状態になります。
- 2.LCDバックライトをスタンバイモードで15秒間作動させると、スピードライトは自動的にオフになり、バックライトは電源を節約し、電力の放電を防ぐ作動をします。

## カスタム機能設定



撮影設定のカスタムフラッシュ機能に従って設定します。

カスタム機能設定ボタンを押します。

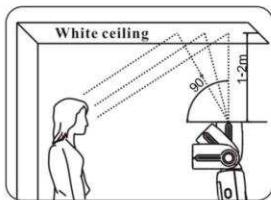
Fn 左の図に示します。

必要な機能を[上][下]キーで選択して設定します。

カスタム機能 No.	機能	設定 ID	設定と削除
C.Fn-01	自動電源OFF	0 1	on off
C.Fn-03	フラッシュ露出アラート自動取消	0 1	on off
C.Fn-04	フラッシュ露出アラート順序	0 1	0→1→2 →0→1
C.Fn-08	AF補助ビーム発光	0 1	on off
C.Fn-14	アサースイッチ	0 1	on off

注：00～13のオプションのFn番号は、「外部フラッシュカスタム機能設定」のカメラメニューからアクセスして設定することができます。  
00,02,05,06,07,09,10,11,12,13オプションの番号が無効になっています（内部のCanonカメラメニュー）

### スピードライトを斜めに調整する 旋回角度反射面を選択する



スピードライトのヘッドを上に向け、天井に反射するときに、最も簡単な効果を得るために最も簡単な方法を使用することができます。

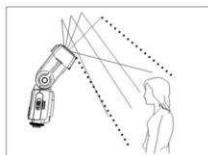
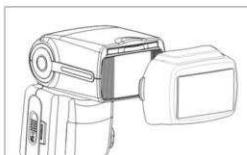
同じ効果を得るためにカメラと水平回転板を持ってください。

注意：スピードライトヘッドのフラッシュダイレクトライトをボディに使用しないでください。

スピードライトヘッドと反射面との間の実効距離は、1mから2mの間にあります。カラー写真を撮影するときは、白または強い反射面を選択してください。そうでない場合は、写真を撮影することはあまりよくありません。

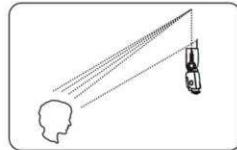
### 撮影にリフレクターを使用する

スピードライトにリフレクターを固定してください。反射照明は、影のない柔らかな光を得ることができます。それは、レベルまたはポートレートの位置で任意のカメラと同じ効果になります。スピードライトを60度の位置のとき、それは



### 内蔵式反射板を使用する

反射フラッシュ撮影時には、反射板が内蔵されているため、被写体がより明るくシャープになり、被写体の前で照らされることができます。



### 内蔵式ワイドパネルを使用

カメラから被写体までの距離が2m未満の場合は、ワイドパネルを使用してぼやけた写真を撮ることができます。広角ディフューザーを内蔵することで、広角撮影が可能です。



## 仕様

回路設計：絶縁ゲートバイポーラトランジスタ（IGBT）

フラッシュインデックス：56 (ISO100,180mm)

フラッシュカバレッジ：18~180mm

手動、自動ズーム

スイング/チルトフラッシュヘッド（パウンスフラッシュ）

フラッシュモード：TTL、M、FEB、スレーブ、S1、S2、マルチ

ワイヤレスストリガ：ワイヤレス誘導フラッシュ照明

ワイヤレスフラッシュ距離：屋内20~30メートル、

屋外10~15メートル

上下旋回角度：-7~90°

左右旋回角度：0~180°

スレーブグループとユニット：4つのスレーブ通信チャネル（1,2,3,4）  
3スレーブユニットグループ（A、B、C）

色温度:5500K

フラッシュ時間：1/200秒～1/2000秒

フラッシュコントロール：1/128～1/1ステップの長さは0.3EV、合計22微調整。

周辺機器インターフェース：ホットシュー、PCマウント、外部充電マウント

リサイクル時間：2.9秒

電源：4本 単三形アルカリ電池または単3形ニッケル水素（NI-MH）電池

点灯回数：100～1500回

追加機能：PC同期、スニフモード、過熱保護

容積：200×75×57mm

正味重量：375g

## アクセサリー

保護袋 : 1個

ミニスタンド : 1個

リフレクター : 1個

取扱説明書 : 1冊

